平成２４年３月３０日

２０１１年度　笹川記念保健協力財団

研　究　報　告　書

研　究　課　題　　被災者支援のための講演会・シンポジウムの開催

所属機関・　職　心の相談室　　室長

研究代表者氏名　　岡　部　　健

内　　容

Ⅰ研究の目的・方法

Ⅱ研究の内容・実施経過

Ⅲ研究の成果

Ⅳ今後の課題

Ⅴ研究の成果の公表予定

東日本大震災被災者支援講演会（講師：柳田邦男）結果報告書

開催日時：2012年3月3日午後1時30分から4時
会　　場：宮城県東松島市コミュニティセンター
主　　催：心の相談室

Ⅰ　研究の目的・方法

東日本大震災から１年を経てなお、多くの方が、突然、不条理に近親者を亡くした悲しみの淵にあり、また、職を失くし、家屋、財産、思い出の品々等々を流されて方途に迷っている。

そのようななかで、深い悲しみを抱えても、なお前に進むという意欲（「心力」）の形成・賦活に寄与するようなメッセージを伝える。

方　法：被災地で、被災者を対象として、被災の実態を踏まえた内容の講演会の開催する。

Ⅱ　研究の内容・実施経過

（１）開催地：　東松島市

１０ｍを超える津波の襲われ（仙台港12.5m）、死者・行方不明者１１１３人。実数で県内３番目、人口比で４番目の大きな被害を受けた。

東松島市（旧矢本町、鳴瀬町合併、２０１０年国調人口　42,908人）

市町村	死者数Ａ	行方不明者Ｂ	A+B＝C	2010国調人口	C／人口%
石巻市	3,181	651	3,832[1]	160,704	2.38
気仙沼市	1,029	351	1,380[2]	73,494	1.88
東松島市	1,047	66	1,113[3]	42,908	2.59[4]
名取市	911	58	969	73,140	1.32
女川町	575	370	945	10,051	9.40[1]
南三陸町	566	310	876	17,431	5.03[2]
山元町	671	19	690	16,711	4.13[3]

（２）内　容（資料１参照）

①被災の実態を踏まえた内容のものとするため、
　前半（１時間）：地元の被災者３名、支援者１名の体験発表
　後半（１時間）：柳田邦男先生の講演
②講師のメッセージをより多くの被災者に届けるために、講演を収録して
　特別番組「震災から１年　カフェデモンク　スペシャル『生きなおす力』」として放送
　　・委託先：株式会社エフエム仙台タウンズ
　　・放送日：平成24年3月11日　20:00～20:55
③全体の進行は、ラジオパーソナリティ（板橋恵子）によるインタビュー方式

Ⅲ　研究の成果（資料２参照）

（１）参加者

一般参加者１６４名、来賓、協力者・主催者等関係者２４名　計 188 名

アンケートの集計では、地元（東松島市と隣接する石巻市）方が８３％、被災者が７８．５％

地元の被災者を対象とするとした趣旨に沿う結果であった（地元以外への広報は抑制）。

（２）評　価

①アンケートは１０７枚回収、回収率 65.2%（来賓、関係者を除く）。無記入は 1 枚のみ

その内容を見ると、

②前半、後半共に「参考になった、心にしみた」の評価が 8 割強

③　69 名の方から意見を記していただいた。

前半部分の時間が長いという 2 名の方（非被災者）の批判以外は、評価する内容のものであった。

以上のことから、

被災された方々に、「深い悲しみを抱えても、なお前に進むという意欲（「心力」）の形成・賦活に寄与するようなメッセージを伝える」という所期の目的は達成できたものと考える。

特に、津波で被災した 70 代のご婦人から、「身近な話題を例にあげ、わかりやすくお話ししていただき良かった。私も悲しい思いが一杯ありましたので（すべて失って生かされた身です）しばしのあいだ心癒されました。」いう感想をいただいたことからもこの企画が有意義なものであったと評価される。

Ⅳ　今後の課題

講演と放送の録音を活用してより広く伝える方法（出版、放送等）を検討する。

Ⅴ　研究の成果の公表予定：特になし

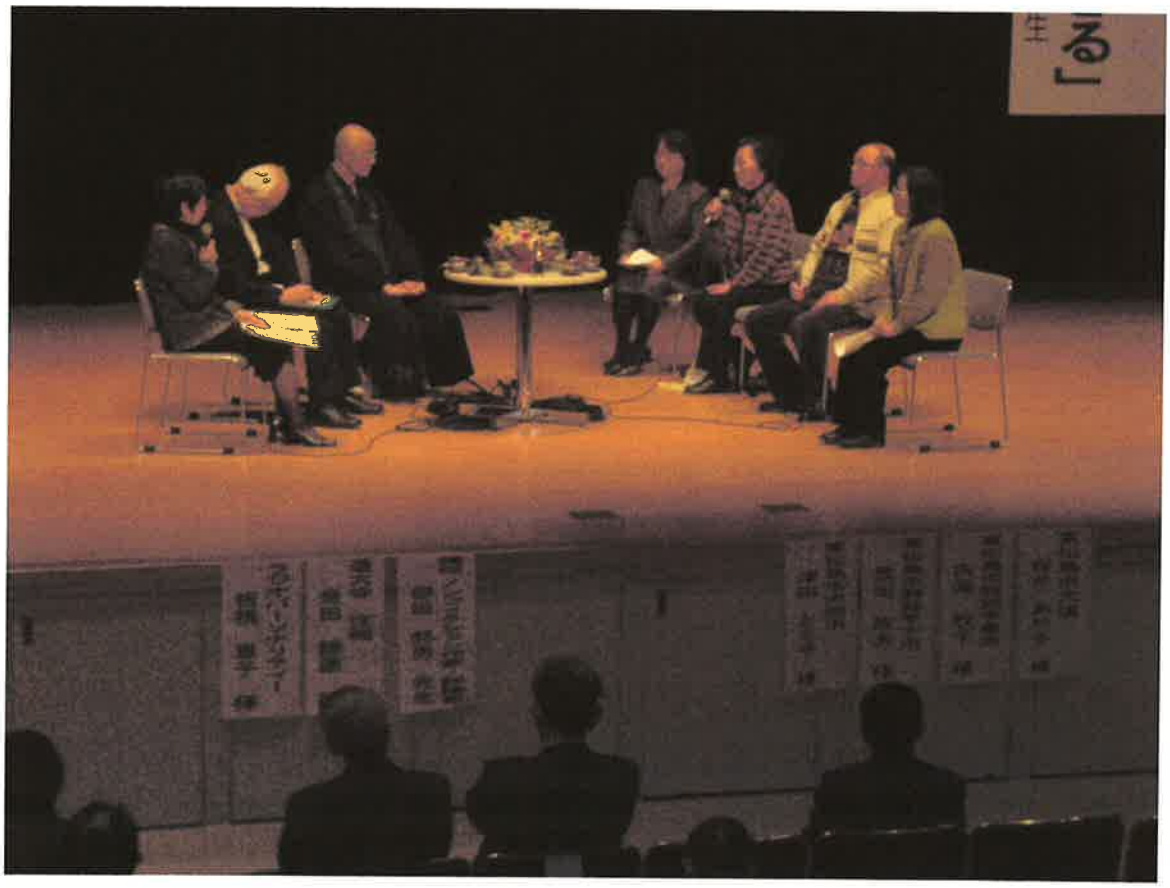
＜参考＞

資料１　東日本大震災被災者支援講演会の概要

資料２　東日本大震災被災者支援講演会アンケート結果

2012. 3.3柳田邦男先生講演会会場

2012.3.3柳田邦男先生講演会　第1部　被災体験発表　津田さん



2012.3.3柳田邦男先生講演会　第2部　講演

2012.3.3柳田邦男先生講演会　関係者

東日本大震災被災者支援講演会

「この悲しみを抱えて生きる」

講師：柳田邦男先生 ノンフィクション作家・評論家

この悲しみを抱えて生きる ―

「木枯らしが吹き始める頃、柿（かき）の木の葉が落ちて、たくさんの実が黄色味を増してくる。そんな柿の実をもがないでおくと、やがて熟し切ってポトンと落ちる。物事にはあせってもどうしょうもないことがあるけれど、時が流れるうちに不思議なことに、柿の実が熟して落ちるように、一筋の光が射（さ）してくるような変化が起こる。とくに心の問題になると、そういう変化が訪れるまで長い時間がかかる」

「…死によって肉体を失っても、その人の心、生き方、言葉は、人生を共に生きた他者の心の中で生き続ける、…」

柳田邦男『生きなおす力』（新潮文庫）

平成 24 年 3 月 3 日（土） 13：30 ～ 15：30　開場 12：30

内容：被災者・支援者との意見交換と講演（インタビュー形式）

無料 お申込み不要

会場：**東松島市コミュニティセンター**

東松島市矢本字大溜 1－1　TEL 0225-82-6969　※駐車場：有

主催：心の相談室

お問い合せ：電話 080－2820－2099　櫻井

e-mail　kyohito_sakurai@soshukai.jp

後　援：東松島市　東松島市教育委員会　宮城県宗教法人連絡協議会

（公財）笹川記念保健協力財団　助成事業

特別協賛：日本財団

講師：柳田邦男先生 ノンフィクション作家・評論家

<プロフィール>
1936 年栃木県生まれ。現代に生きる人間のいのちの危機をテーマに、病気、災害、事故、公害、戦争などの問題についてのノンフィクションや評論を発表してきている。
1995 年『犠牲　わが息子・脳死の 11 日』とノンフィクションジャンル確立への貢献により菊池寛賞受賞。この震災を契機に、『生きなおす力』（新潮文庫）、『僕は９歳のときから死と向きあってきた』（新潮社）『「想定外」の罠　大震災と原発』をまとめる。
現在、政府の東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会委員（委員長代理）

＜柳田邦男先生の著作から＞

「だいじな人、愛する人を亡くすということは、残された人の心の中で、もう一つの死が生じることでもある。心の中にポッカリと穴が空いてしまう。生きる支えとなる柱がなくなったような、あるいは道標（みちしるべ）のない荒野をさ迷うような、何とも言えない虚無感の中で、昨日が過ぎ、今日が過ぎていく。」

『生きなおす力』（新潮文庫）「心の中の『死』」

「精神性を中心に置いたいのちのライフサイクルを考えるとき、では死と死後はどういうカーブを描けばいいのでしょうか。［ 省略 ］　つまり、死で人生は終わらない、人間は死ぬときの形や、死ぬ前に何を成し遂げたか、そしてどのような別れをしたか、それらがすべて残された人の心の中に生きつづけるわけです。［ 省略 ］　つまり、旅立った人の精神性のいのちは、残された人の心の中で生き続け、後を生きる人の生き方を豊かにするという形で、死後も成長し続けるということができると思うのです。」

『僕は９歳のときから死と向きあってきた』（新潮社）「死後生を含むライフサイクル論」

「日本ＡＬＳ協会事務局長だった、自らも患者の松岡幸雄氏が、多くの患者たちに語りかけた言葉（小著『「人生の答」の出し方』新潮文庫より）。
＜春の桜、夏の海、冬の雪景色、生きていればすばらしい出会いがあるのです。＞」

同　上　　「言葉は『いのち』の伝導者」

主催 心の相談室

「心の相談室」は、宗教や宗派の違いを超えて集まった僧侶、牧師、神職などの宗教者が中心となって、東日本大震災で亡くなられた方の追悼と被災された方のお話を傾聴する活動を行っている団体です。

心の相談室ブログ　http://www.sal.tohoku.ac.jp/kokoro/diary.cgi

困ったこと・心配なことはありませんか？大切な方を亡くして寂しい思いをしていませんか？

電話相談 ＜期間 2012 年 3 月 28 日㈬ まで＞

●僧侶、牧師、神職やカウンセラーが皆様のお悩みを伺い、ご一緒に解決の糸口を見つけます。

相談料無料・通話料無料

0120-828-645
※通話料無料（フリーダイヤル）

◆相談日／毎週日曜日・水曜日　◆相談時間／ 15：00 ～ 21：00

ラジオ番組 カフェ・デ・モンク
Café de Monk

●各界の著名人・支援者からあなたへ、
「共に生きる」メッセージをお届します。

放送日時／	Date fm（仙台）	毎週土曜日	8:00 ～ 8:25
	ふくしま FM	毎週日曜日	8:00 ～ 8:25
	エフエム岩手	毎週土曜日	9:00 ～ 9:25

◆インターネットでもリアルタイムで聴取できます。
＜radiko.jp 復興プロジェクト＞ http://fukkou.radiko.jp/

YouTube からバックナンバーを聴取できます。
http://www.youtube.com/user/Cobrapool
※バックナンバーは心の相談室ブログからもアクセスできます。

●過去の主な出演者（平成 23 年）

10 月 22 日　篠原鋭一 さん
：ＮＰＯ法人「自殺防止ネットワーク風」代表

11 月 19 日　山浦玄嗣 さん
：医師、岩手県大船渡市の医院が被災。ケセン語聖書翻訳者

11 月 26 日　玄侑宗久 さん
：作家、福島県三春町福聚寺住職

12 月 24 日　日野原重明 さん
：医師、聖路加病院理事長